

令和7年度 城東区民アンケート

集計結果報告書

— 標本代表性検証および設問別集計結果（年代別分析含む） —

令和8年3月 大阪公立大学文学研究科社会学教室

目次

第1部 標本の代表性検証

1. 分析の目的
2. 標本構成と母集団構成の比較
3. カイニ乗適合度検定
4. ウェイト補正を実施しない理由
5. 小括

第2部 アンケートの結果

1. 調査概要
2. 各設問の集計結果（問番号順）
 - 問1 区役所からの情報の入手先（複数回答）
 - 問2 広報誌で充実してほしい記事（複数回答）
 - 問3 区役所の取組みに対する思い
 - 問4 区役所の情報発信に対する思い
 - 問5 日常生活の相談等に関する窓口対応の感じ方
 - 問6 住民同士の「つながり」等に対する感じ方
 - 問7 防災活動の取組みに対する感じ方
 - 問8 広報誌や SNS 等の防災に関する情報に対する防災意識の感じ方
 - 問9 災害に備えた備蓄品の準備
 - 問10 最大想定浸水深への関心度
 - 問11 防犯の取組みに対する感じ方
 - 問12 まちの安全に対する感じ方
 - 問13 まちが安全・安心だと感じない理由（自由記述・集計対象外）
 - 問14 マイナンバーカードの取得有無
 - 問15 マイナンバーカードを取得しない理由（自由記述・集計対象外）
 - 問16 マイナンバーカードサービスの認知度（複数回答）
 - 問17 中学生以下の子どもの子育て有無
 - 問18 城東区で子どもを育てたい思い
 - 問19 子育て支援事業の参加有無
 - 問20 子育て支援事業の開催情報の入手先（複数回答）

問 21 健康に配慮した食事への思い

問 22 朝食摂取の有無

3. まとめ

第1部 標本の代表性検証

1. 分析の目的

本調査の回答者（ $n = 729$ ）が城東区の年齢層別人口構成（令和7年9月時点）を適切に反映しているかを検証するため、カイニ乗適合度検定による標本の代表性評価を実施した。年齢層は30代以下・40～50代・60代以上の3区分とした。

なお、本調査は政策立案のための参考的調査であり、年齢層別の比較分析を中心に行うことから、以下に述べる統計的な偏りを確認したうえで、ウェイト補正は実施しないこととした。

2. 標本構成と母集団構成の比較

30代以下の標本比率（21.4%）は母集団比率（30.0%）を8.6ポイント下回り、60代以上の標本比率（42.9%）は母集団比率（35.6%）を7.3ポイント上回っており、年齢層間で構成比の乖離が観察された。

表1 年齢層別の母集団・標本構成

年齢層	母集団人口	母集団比率	回答者数	標本比率	差
30代以下	44,317	30.0%	156	21.4%	-8.6pt
40～50代	50,666	34.3%	260	35.7%	+1.4pt
60代以上	52,605	35.6%	313	42.9%	+7.3pt
合計	147,588	100%	729	100%	—

※ 母集団人口：城東区住民基本台帳（令和7年9月現在）。対象者は18歳以上。合計147,588人。

※ 有効回答数：729件（年齢未回答等25件を除く）。

3. カイニ乗適合度検定

$$\chi^2(2) = 29.33, p < .001 (p = 4.28 \times 10^{-7}) \quad \text{Cramér's } V = 0.14 \text{ (小～中程度)}$$

検定の結果、有意水準 1%のもとで帰無仮説は棄却された。30 代以下では実測度数が期待度数を有意に下回り（過少代表）、60 代以上では実測度数が期待度数を有意に上回っている（過剰代表）。30 代以下（ χ^2 寄与度 18.07）と 60 代以上（10.89）の 2 層の χ^2 寄与度の合計が全体 29.33 の約 99%を占めており、偏りのほぼすべてがこの 2 層によるものであることがわかる。中年層（40～50 代）には有意な乖離は認められなかった。

表 2 期待度数・標準化残差・ χ^2 寄与度

年齢層	実測度数 (O)	期待度数 (E)	標準化残差	χ^2 寄与度
30 代以下	156	218.9	-4.25 **	18.07
40～50 代	260	250.3	+0.61	0.38
60 代以上	313	259.8	+3.30 **	10.89

※ ** は |標準化残差| > 2.0 (有意水準 5%相当) を示す。

4. ウェイト補正を実施しない理由

【理由 1】本分析目的においてウェイト補正を必須としなかった統計的根拠

ウェイト補正（事後層化）の目的は、標本の年齢構成を母集団の年齢構成に合わせることで、全体集計値の偏りを除くことにある。しかし、年齢層別の比較分析においては、本分析目的においてこの補正は必須ではない。その理由を以下に説明する。

(1) 全体集計とウェイト補正の関係

全体集計において、ウェイトなしの回答率は各年代の標本数 n によって自動的に加重される。本調査では 60 代以上が過剰代表 ($n=313$) であるため、60 代以上に特徴的な回答傾向が全体値に過大に反映される。ウェイト補正はこの歪みを母集団の年齢構成に合わせて修正するものである。

(2) 年齢層別集計とウェイト補正の関係

年齢層 g における回答率の推定値は次式で表される。

$$\hat{p}_g = (\text{層 } g \text{ 内の該当回答数}) \div (\text{層 } g \text{ 内の有効回答数 } n_g)$$

この式に登場するのは層 g 内の回答者のみであり、他の層の人数（例えば 60 代以上の $n=313$ ）は

どこにも現れない。すなわち、標本全体の年齢構成がどれだけ偏っていても、各層内の推定値にはまったく影響を与えない。

(3) 具体例による確認

例えば問12「まちの安全に対する感じ方」の肯定的回答率（「感じる」＋「ある程度感じる」）を年代別に見ると、30代以下88%・40～50代86%・60代以上85%であった。「30代以下の肯定的回答率は88%」という値は、156件の30代以下回答者の中だけで計算される。したがって、60代以上が313件あるいは156件でも、30代以下の88%という値は変わらない。

(4) ウェイト補正が問題になる場合との対比

分析の目的	ウェイト補正の必要性	理由
全体の回答率を推定する	必要	年齢構成の偏りが全体値を歪めるため
年代別の回答率を比較する	必須でない	層内の計算は他の層の人数に影響されないため
年代間の差の大きさを評価する	必須でない	各層内で割合が計算されるため、他層の標本数の影響を直接受けないため

以上より、本調査の主要な分析が年齢層別の比較分析である限り、標本の年齢構成の偏りは層別集計の結果に直接の影響を与えず、本分析目的においてウェイト補正は必須ではない。なお、全体集計値についてはウェイト補正值を参考として併記し、解釈の補助に用いる。

【理由2】ウェイト補正による分散増大とその問題

(1) ウェイト補正が推定値の分散を増大させる仕組み

ウェイト補正では、過少代表の層（本調査では30代以下）に大きなウェイトを掛けて全体値を補正する。本調査における各年代のウェイト値は以下のとおりである。

年齢層	標本 n	母集団比率	ウェイト値	意味
30代以下	156	30.0%	×1.40	1人の回答を1.40人分として計算
40～50代	260	34.3%	×0.96	1人の回答を0.96人分として計算
60代以上	313	35.6%	×0.83	1人の回答を0.83人分として計算

30代以下の回答者156人を、218人分（ $=156 \times 1.40$ ）であるかのように扱うことで、年齢構成を母集団に合わせるのがウェイト補正の仕組みである。

(2) 分散増大の問題

推定値の分散（ばらつき）が大きくなるとは、同じ調査を繰り返したときに得られる結果が毎回大きく変動することを意味する。これは次の2つの実害をもたらす。

問題	具体的な影響
① 信頼区間が広がる	例えば「30代以下の賛成率は60%」という推定値に対して、ウェイトなしでは±8%の幅（52%～68%）で推定できていたものが、ウェイトありでは±11%（49%～71%）に広がる。区間が広がるほど、「本当のところ何%なのか」が不明確になる。
② 検定の検出力が低下する	年代間の差が「統計的に有意か否か」を判断する検定において、分散が大きいか小さいかの差を検出しにくくなる。つまり、実際には意味のある年代差があるにもかかわらず、「有意差なし」と誤って結論づけるリスク（第2種の過誤）が高まる。

(3) 前提条件

以上の議論は、各年代内の回答者が当該年代の母集団を代表していることを前提とする。本調査では各年代とも一定数の回答が得られているため、年代別比較分析は一定の安定性を有すると考えられる。ただし、回答しなかった人（非回答者）の特性が回答者と異なる可能性（非回答バイアス）は排除できないため、解釈にあたっては留意が必要である。

【理由3】効果量（Cramér's V）による偏りの規模評価

(1) p値だけでは偏りの「大きさ」はわからない

カイニ乗検定の結果は $p < .001$ と高度に有意であったが、p値は「偏りが存在するかどうか」を示すだけであり、「偏りがどれほど大きいか」は示さない。p値はサンプルサイズが大きくなるほど小さくなる性質があるため、実際には些細な偏りでも「統計的に有意」と判定されうる。本調査のように $n=729$ という比較的大きなサンプルでは、この傾向が特に顕著である。偏りの実質的な規模を評価するには、サンプルサイズの影響を受けない効果量の指標が必要となる。

(2) Cramér's V とは何か

Cramér's V はカイニ乗統計量をサンプルサイズと自由度で標準化した効果量の指標であり、0（偏りなし）から1（完全な偏り）の範囲をとる。算出式は以下のとおりである。

$$V = \sqrt{\chi^2 \div (n \times (k-1))} = \sqrt{29.33 \div (729 \times 2)} = 0.14$$

ここで k は年齢区分の数（3区分）、 $k-1=2$ が自由度にあたる。

(3) $V = 0.14$ が意味すること

Cramér's V の値	偏りの規模の解釈（自由度=2の場合）	本調査との対比
0.00～0.07	小（実質的に無視できる水準）	本調査より小さい

Cramér's V の値	偏りの規模の解釈（自由度=2 の場合）	本調査との対比
0.07～0.21	小～中程度（一定の偏りは認められるが、極端に大きいものではない）	← 本調査はここ（V=0.14）
0.21～0.35	大（結果の解釈に相当の注意が必要）	本調査より大きい
0.35 以上	非常に大（ウェイト補正なしでは解釈困難）	本調査より大きい

V = 0.14 は「小～中程度」の偏りに分類される（なお、一変量の適合度検定における効果量としては Cohen's $w = \sqrt{\chi^2/n} = \sqrt{29.33/729} \approx 0.20$ がより本来的であるが、ここでは便宜的指標として Cramér's V を用いる）。これは標本の年齢構成が母集団と完全に一致しているわけではないが、全体集計値を根本的に歪めるほどの偏りでもないことを意味する。実際に、本報告書の全設問においてウェイトなしとウェイトありの差を確認したところ、大部分の選択肢で±2pt 以内にとどまっており、この評価と整合的である。ただし、分析目的によっては 0.14 程度の偏りでも政策的に無視できない場合があることに留意が必要である。

（4）結論

p 値が有意であっても効果量が小～中程度（V = 0.14）であるという事実は、偏りは統計的には検出できるが、本分析目的に照らして大きな支障はないことを示している。ウェイト補正によって分析の精度（推定値の分散）が悪化するリスクと、補正しないことで生じる偏りの規模を比較衡量した結果、本分析目的においてはウェイト補正は必須ではないと判断した。主分析では原データによる集計値を用い、補助的な参考値としてウェイト補正值を併記する。

【標本の代表性に関する留意事項】

本調査の標本は 30 代以下がやや過少（標本比率 21.4%、母集団比率 30.0%）、60 代以上がやや過剰（標本比率 42.9%、母集団比率 35.6%）に含まれている（ $\chi^2(2) = 29.33$, $p < .001$, $V = 0.14$ ）。年齢構成に回答傾向が強く依存する設問については、全体集計値の解釈に留意が必要である。なお、年齢層別の比較分析についてはこの制約は直接影響しない。

5. 小括

本調査の標本は 30 代以下の過少代表・60 代以上の過剰代表という系統的な偏りを有することが確認されたが（ $\chi^2(2) = 29.33$, $p < .001$, $V = 0.14$ ）、効果量は小～中程度（V = 0.14）であり、本調査が年齢層別の比較分析を主目的とすること、および 30 代以下への大きなウェイト付けによる分散増大リスクを総合的に勘案し、本分析目的においてはウェイト補正は必須ではないと判断した。以降の分析では原データに基づく集計値を主軸とし、参考値としてウェイト補正值を併記する。

第2部 アンケートの結果

1. 調査概要

項目	内容
調査目的	区の情報発信などについて区民が現時点でどのように感じているかを把握し、今後の事業に役立てる
調査対象	住民基本台帳（外国人住民を含む）から無作為抽出した18歳以上の1,500人
調査時期	令和8年1月16日（金）～令和8年1月30日（金）
調査方法	郵送による配布・回収および大阪市行政オンラインシステムによるアンケート
回収数・回収率	754人（郵送467人、オンライン287人） 回収率：50.3%（754÷1,500）
有効回答数	754人（回収数と同数。記入不備等による除外なし）
年齢有効回答数	729件（年齢未回答等25件を除く）
年代区分	30代以下（n=156）・40～50代（n=260）・60代以上（n=313）
集計方法	各設問の選択肢の割合は当該設問の有効回答数を分母として算出し、無回答率のみ全回答者数n=754を分母として統一。ウェイト補正なし集計を主軸とし、参考としてウェイト補正値を併記。

※ ウェイト補正値は参考情報として掲載。主たる解釈は原データ（ウェイトなし）集計値による（第1部参照）。

※ 全集計表において、選択肢の割合は各設問の有効回答数を分母として算出し、無回答率のみ全回答者数n=754（年代別集計では各年代の全回答者数）を分母として算出している。

※ 問18は問17で「はい」と回答した者（n=135）のみを対象とした条件付き設問のため、分母はn=135（年代別は各年代の該当者数）とし、「無回答」行は設けない。

2. 各設問の集計結果

問1 区役所からの情報の入手先

【設問】あなたは、城東区役所からの情報を主に何から入手していますか。（回答はいくつでも）

※ 複数回答（分母=全回答者 n=754）。ウェイトあり値はウェイト付き集計による。

① 全体集計（n=754）

選択肢	ウェイトなし (%)【主】	ウェイトあり (%)【参考】	差 (W-R)
1 城東区広報誌「ふれあい城東」	82.5	81.0	-1.5
2 城東区ホームページ	19.6	20.2	+0.6
3 城東区公式 X (旧 Twitter)	1.2	1.3	+0.1
4 大阪市 LINE 公式アカウント	6.2	6.7	+0.5
5 生活ガイドブック「くらしの便利帳」	7.8	6.5	-1.3
6 町会の回覧、掲示板	37.3	34.0	-3.3
7 子育て応援情報誌「わくわく城東」	4.6	5.6	+1.0
8 その他	5.3	5.7	+0.4

② 年代別集計 (ウェイトなし、各年代内を分母)

選択肢	30代以下 (%) n=156	40~50代 (%) n=260	60代以上 (%) n=313
1 ふれあい城東	67.9	81.9	91.1
2 城東区ホームページ	21.8	25.8	13.4
3 城東区公式 X	1.9	1.5	0.6
4 大阪市 LINE	6.4	10.8	2.9
5 くらしの便利帳	0.6	3.5	14.4
6 町会の回覧、掲示板	19.2	26.9	53.4
7 わくわく城東	10.9	5.8	1.0
8 その他	9.6	4.2	3.8

※ 「ふれあい城東」が全年代で最多 (83%)。60代以上 (91%) が突出。「町会の回覧・掲示板」も60代以上 (53%) で高い。→紙媒体・地域ネットワークが高齢層の主要情報源であり、この層への情報到達は既存チャンネルで確保されていると言える。

※ 30代以下は「城東区ホームページ」(22%) 「わくわく城東」(11%) など若年層向け媒体の比率が相対的に高い。ただし「大阪市 LINE」(6%) はまだ低く、SNS・デジタルチャンネルのさらなる強化が若年層への情報到達率向上につながると考えられる。

問2 広報誌で充実してほしい記事

【設問】城東区広報誌「ふれあい城東」で、充実してほしい記事はどれですか。(回答はいくつでも)

※ 複数回答 (分母=全回答者 n=754)。

① 全体集計 (n=754)

選択肢	ウェイトなし (%) 【主】	ウェイトあり (%) 【参考】	差 (W-R)
1 地域で活躍されている人や名所・旧跡などの特集	23.1	22.2	-0.9
2 暮らし・住まいに関すること	60.9	61.7	+0.8
3 防災・防犯に関すること	56.0	55.0	-1.0
4 子育てに関すること	19.0	22.7	+3.7
5 健康に関すること	46.7	44.2	-2.5
6 高齢者に関すること	39.4	33.2	-6.2

② 年代別集計 (ウェイトなし、各年代内を分母)

選択肢	30代以下 (%) n=156	40~50代 (%) n=260	60代以上 (%) n=313
1 地域の人や名所・特集	17.3	22.3	26.2
2 暮らし・住まい	59.6	72.3	53.4
3 防災・防犯	48.1	57.7	58.1
4 子育て	44.9	23.8	2.9
5 健康	28.8	44.6	56.9
6 高齢者	4.5	19.6	70.6

※ 「暮らし・住まい」 (61%) が最多、次いで「防災・防犯」 (56%)、「健康」 (47%) の順。

※ 「子育て」は30代以下 (45%) が60代以上 (3%) を大きく上回り、「高齢者」は60代以上 (71%) が突出。
→ 広報誌の紙面構成において、年代別に求める記事内容が明確に異なっており、高齢者向けコンテンツの比重が現状の紙面配分と合致しているか検討の余地がある。

問3 区役所の取組みに対する思い

【設問】区役所が様々な取組みについて、企画・計画段階から区民の参画や協働を得るように努めていると思いませんか。(回答は1つだけ)

※ 単数回答 (1=思う、2=ある程度思う、3=あまり思わない、4=思わない)

① 全体集計 (n=754)

選択肢	ウェイトなし (%)【主】 n=754	ウェイトあり (%)【参考】 n=754	差 (W-R)
1 (思う)	13.8	13.2	-0.6
2 (ある程度思う)	47.2	48.0	+0.8
3 (あまり思わない)	29.3	29.0	-0.3
4 (思わない)	9.7	9.8	+0.1
無回答	1.9% (14件)	—	—

② 年代別集計 (ウェイトなし、各年代内を分母)

選択肢	30代以下 (%) n=153	40~50代 (%) n=255	60代以上 (%) n=309
1 (思う)	11.1	11.8	16.2
2 (ある程度思う)	53.6	47.1	44.3
3 (あまり思わない)	26.8	28.2	31.7
4 (思わない)	8.5	12.9	7.8
無回答	1.9%	1.9%	1.9%

※ 「思う」「ある程度思う」の合算 (肯定的意見) は全体で61% (30代以下65%・40~50代59%・60代以上61%)。

問4 区役所の情報発信に対する思い

【設問】区役所の様々な取組みについて、必要な時に必要な情報が届いていると思いますか。(回答は1つだけ)

※ 単数回答 (1=思う、2=どちらかといえば思う、3=あまり思わない、4=思わない、5=知らない)

① 全体集計 (n=754)

選択肢	ウェイトなし (%)【主】 n=754	ウェイトあり (%)【参考】 n=754	差 (W-R)
1 (思う)	13.4	12.7	-0.7
2 (どちらかといえば思う)	37.4	37.8	+0.4
3 (あまり思わない)	25.8	25.4	-0.4
4 (思わない)	5.4	5.0	-0.4

選択肢	ウェイトなし (%)【主】 n=754	ウェイトあり (%)【参考】 n=754	差 (W-R)
5 (知らない)	17.9	19.1	+1.2
無回答	2.4% (18件)	—	—

② 年代別集計 (ウェイトなし、各年代内を分母)

選択肢	30代以下 (%) n=155	40~50代 (%) n=260	60代以上 (%) n=306
1 (思う)	9.0	13.8	14.7
2 (どちらかといえば思う)	40.0	37.7	35.9
3 (あまり思わない)	21.3	23.5	30.7
4 (思わない)	1.3	8.1	5.2
5 (知らない)	28.4	16.9	13.4
無回答	2.4%	2.4%	2.4%

※ 「思う」「どちらかといえば思う」の合算 (肯定的意見) は全体で51%。30代以下は「知らない」が28%と高く、情報未到達層が多い。

問5 日常生活の相談等に関する窓口対応の感じ方

【設問】この1年間に区役所に対して日常生活に関する相談や要望を行い、区役所は適切に対応したと感じましたか。(回答は1つだけ)

※ 単数回答 (1=感じた、2=どちらかといえば感じた、3=あまり感じなかった、4=感じなかった、5=この1年間に相談や要望を行っていない)

① 全体集計 (n=754)

選択肢	ウェイトなし (%)【主】 n=754	ウェイトあり (%)【参考】 n=754	差 (W-R)
1 (感じた)	10.5	10.6	+0.1
2 (どちらかといえば感じた)	12.5	12.3	-0.2
3 (あまり感じなかった)	5.5	5.1	-0.4
4 (感じなかった)	2.2	2.2	+0.0
5 (相談・要望なし)	69.4	69.8	+0.4

選択肢	ウェイトなし (%)【主】 n=754	ウェイトあり (%)【参考】 n=754	差 (W-R)
無回答	2.7% (20件)	—	—

② 年代別集計 (ウェイトなし、各年代内を分母)

選択肢	30代以下 (%) n=155	40~50代 (%) n=260	60代以上 (%) n=304
1 (感じた)	12.9	6.5	12.5
2 (どちらかといえば感じた)	14.8	9.2	13.2
3 (あまり感じなかった)	3.2	4.6	7.2
4 (感じなかった)	3.2	1.5	2.0
5 (相談・要望なし)	65.8	78.1	65.1
無回答	2.7%	2.7%	2.7%

※ 「この1年間に相談や要望を行っていない」が全体で69%。相談・要望を行った層のうち「感じた」「どちらかといえば感じた」の合算は約75%。

問6 住民同士の「つながり」等に対する感じ方

【設問】あなたにとって住民同士の「つながり」や「きずな」があると感じますか。(回答は1つだけ)

※ 単数回答 (1=感じる、2=ある程度感じる、3=あまり感じない、4=感じない)

① 全体集計 (n=754)

選択肢	ウェイトなし (%)【主】 n=754	ウェイトあり (%)【参考】 n=754	差 (W-R)
1 (感じる)	8.5	8.5	+0.0
2 (ある程度感じる)	32.7	31.9	-0.8
3 (あまり感じない)	39.4	39.6	+0.2
4 (感じない)	19.4	20.0	+0.6
無回答	2.1% (16件)	—	—

② 年代別集計 (ウェイトなし、各年代内を分母)

選択肢	30代以下 (%) n=156	40~50代 (%) n=260	60代以上 (%) n=307
1 (感じる)	9.6	6.9	9.1
2 (ある程度感じる)	28.2	27.7	39.1
3 (あまり感じない)	37.2	45.0	36.5
4 (感じない)	25.0	20.4	15.3
無回答	2.1%	2.1%	2.1%

※ 「感じる」「ある程度感じる」の合算は全体で41%。「あまり感じない」が39%と拮抗。60代以上(48%)が最も高く、40~50代(35%)が最も低い。

問7 防災活動の取り組みに対する感じ方

【設問】お住まいの地域は、防災活動に取り組んでいると感じますか。(回答は1つだけ)

※ 単数回答 (1=感じる、2=ある程度感じる、3=あまり感じない、4=感じない)

① 全体集計 (n=754)

選択肢	ウェイトなし (%) 【主】 n=754	ウェイトあり (%) 【参考】 n=754	差 (W-R)
1 (感じる)	11.7	11.4	-0.3
2 (ある程度感じる)	38.8	38.4	-0.4
3 (あまり感じない)	36.8	37.2	+0.4
4 (感じない)	12.8	13.0	+0.2
無回答	2.3% (17件)	—	—

② 年代別集計 (ウェイトなし、各年代内を分母)

選択肢	30代以下 (%) n=155	40~50代 (%) n=259	60代以上 (%) n=308
1 (感じる)	8.4	12.0	13.3
2 (ある程度感じる)	34.8	42.1	38.0
3 (あまり感じない)	43.2	31.7	37.3
4 (感じない)	13.5	14.3	11.4

選択肢	30代以下 (%) n=155	40~50代 (%) n=259	60代以上 (%) n=308
無回答	2.3%	2.3%	2.3%

※ 「感じる」「ある程度感じる」の合算は全体で51%。40~50代(54%)が最も高い。

問8 広報誌やSNS等の防災に関する情報に対する防災意識の感じ方

【設問】区広報誌やSNS等の防災に関する記事や投稿をご覧になり、ご自身の防災意識が向上したと感じますか。(回答は1つだけ)

※ 単数回答(1=感じる、2=ある程度感じる、3=あまり感じない、4=感じない、5=記事や投稿を見たことがない)

① 全体集計 (n=754)

選択肢	ウェイトなし (%)【主】 n=754	ウェイトあり (%)【参考】 n=754	差 (W-R)
1 (感じる)	6.9	7.0	+0.1
2 (ある程度感じる)	38.3	36.4	-1.9
3 (あまり感じない)	31.5	31.4	-0.1
4 (感じない)	5.4	5.1	-0.3
5 (見たことがない)	17.9	20.1	+2.2
無回答	2.3% (17件)	—	—

② 年代別集計 (ウェイトなし、各年代内を分母)

選択肢	30代以下 (%) n=155	40~50代 (%) n=260	60代以上 (%) n=307
1 (感じる)	7.7	6.5	6.8
2 (ある程度感じる)	27.1	33.8	46.9
3 (あまり感じない)	26.5	35.8	31.3
4 (感じない)	3.9	5.8	5.5
5 (見たことがない)	34.8	18.1	9.4
無回答	2.3%	2.3%	2.3%

※ 「感じる」「ある程度感じる」の合算は全体で45%。60代以上(54%)が最も高い。30代以下は「見たことがない」が35%と高く、情報接触機会が少ない。

問9 災害に備えた備蓄品の準備

【設問】災害に備えて、備蓄用携帯トイレを家族の人数分の準備をしていますか。（回答は1つだけ）

※ 単数回答（1=3日分程度している、2=7日分以上している、3=少ししかしていない、4=全くしていない）

① 全体集計（n=754）

選択肢	ウェイトなし (%)【主】 n=754	ウェイトあり (%)【参考】 n=754	差 (W-R)
1 (3日分程度している)	44.8	44.4	-0.4
2 (7日分以上している)	32.4	32.2	-0.2
3 (少ししかしていない)	17.3	17.6	+0.3
4 (全くしていない)	5.5	5.9	+0.4
無回答	1.1% (8件)	—	—

② 年代別集計（ウェイトなし、各年代内を分母）

選択肢	30代以下 (%) n=156	40~50代 (%) n=260	60代以上 (%) n=309
1 (3日分程度している)	41.7	41.2	49.8
2 (7日分以上している)	30.8	34.6	31.1
3 (少ししかしていない)	17.3	19.2	16.2
4 (全くしていない)	10.3	5.0	2.9
無回答	1.1%	1.1%	1.1%

※ 「3日分程度」が45%で最多、「7日分以上」が32%。60代以上（50%）で「3日分程度」が最も高い。30代以下は「全くしていない」が10%と高め。

問10 最大想定浸水深への関心度

【設問】城東区では区内740か所の電柱に「想定浸水深表示板」を設置しています。ご自宅の最大想定浸水深がどれ位かご存知ですか。（回答は1つだけ）

※ 単数回答（1=知っており避難先も決めている、2=知っているが避難先は未定、3=知らない、4=高層建物なので気にしていない）

① 全体集計 (n=754)

選択肢	ウェイトなし (%) 【主】 n=754	ウェイトあり (%) 【参考】 n=754	差 (W-R)
1 (知っており避難先も決めている)	18.4	18.4	+0.0
2 (知っているが避難先未定)	31.2	30.9	-0.3
3 (知らない)	29.3	29.5	+0.2
4 (高層建物なので気にしていない)	21.1	21.2	+0.1
無回答	0.8% (6件)	—	—

② 年代別集計 (ウェイトなし、各年代内を分母)

選択肢	30代以下 (%) n=156	40~50代 (%) n=260	60代以上 (%) n=311
1 (知っており避難先も決めている)	21.2	16.9	17.4
2 (知っているが避難先未定)	23.7	33.8	34.1
3 (知らない)	32.1	26.9	29.9
4 (高層建物なので気にしていない)	23.1	22.3	18.6
無回答	0.8%	0.8%	0.8%

※ 「知らない」が全体で29%。「知っているが避難先未定」が40~50代(34%)・60代以上(34%)で高く、浸水深は把握しているが避難行動の具体化が課題。「高層建物なので気にしていない」も21%。

問11 防犯の取組みに対する感じ方

【設問】あなたは、防犯の取組みが犯罪の発生抑止につながっていると感じますか。(回答は1つだけ)

※ 単数回答 (1=感じる、2=ある程度感じる、3=あまり感じない、4=感じない)

① 全体集計 (n=754)

選択肢	ウェイトなし (%) 【主】 n=754	ウェイトあり (%) 【参考】 n=754	差 (W-R)
1 (感じる)	19.5	19.2	-0.3
2 (ある程度感じる)	54.2	54.3	+0.1

選択肢	ウェイトなし (%)【主】 n=754	ウェイトあり (%)【参考】 n=754	差 (W-R)
3 (あまり感じない)	20.4	20.3	-0.1
4 (感じない)	5.9	6.2	+0.3
無回答	1.2% (9件)	—	—

② 年代別集計 (ウェイトなし、各年代内を分母)

選択肢	30代以下 (%) n=154	40~50代 (%) n=260	60代以上 (%) n=310
1 (感じる)	19.5	20.8	17.4
2 (ある程度感じる)	51.9	55.0	55.5
3 (あまり感じない)	18.2	19.2	23.2
4 (感じない)	10.4	5.0	3.9
無回答	1.2%	1.2%	1.2%

※ 「感じる」「ある程度感じる」の合算は全体で74%と高い。年代間の差は小さく、全世代で防犯活動の抑止効果を評価している。

問12 まちの安全に対する感じ方

【設問】あなたのお住まいのまちが安全で安心だと感じますか。(回答は1つだけ)

※ 単数回答 (1=感じる、2=ある程度感じる、3=あまり感じない、4=感じない)

① 全体集計 (n=754)

選択肢	ウェイトなし (%)【主】 n=754	ウェイトあり (%)【参考】 n=754	差 (W-R)
1 (感じる)	19.2	19.3	+0.1
2 (ある程度感じる)	67.3	67.3	+0.0
3 (あまり感じない)	11.8	11.7	-0.1
4 (感じない)	1.8	1.7	-0.1
無回答	2.4% (18件)	—	—

② 年代別集計（ウェイトなし、各年代内を分母）

選択肢	30代以下 (%) n=156	40～50代 (%) n=260	60代以上 (%) n=307
1（感じる）	24.4	13.1	21.2
2（ある程度感じる）	63.5	73.1	64.8
3（あまり感じない）	10.3	11.5	13.0
4（感じない）	1.9	2.3	1.0
無回答	2.4%	2.4%	2.4%

※ 「感じる」「ある程度感じる」の合算は全体で87%と高く、安全安心感は総じて良好。30代以下（88%）が最も高い。

問 13 まちが安全・安心だと感じない理由（自由記述）

【設問】【問12で「あまり感じない」又は「感じない」と回答された方】安全で安心だと感じない理由は何ですか。（自由意見）

本設問は自由記述形式のため、数値集計の対象外とする。主な意見の傾向は以下のとおり。

意見カテゴリ	主な内容（代表例）	件数（概数）
外国人・民泊関連	外国人が多い・マナーが悪い・民泊施設の増加、施策が感じられない	約13件
事件・不審者	ひったくり・空き巣・不審者の目撃、夜間のつきまとい	約10件
街灯・道路環境	街灯が少ない・暗い・路地が狭い	約7件
交通・自転車・バイク	自動車の歩行者無視・夜間バイク騒音・電動キックボードの危険走行	約8件
地域のつながり	町内会が機能していない・近所付き合いがない・孤立感	約7件
その他	パトロール不足・防犯カメラの少なさ・災害時の避難場所	約6件

※ 自由記述回答者は有効回答の約14%（問12で「あまり感じない」「感じない」と回答した者、n=100）。件数は記述内容の分類による概数（1件が複数カテゴリに該当する場合あり）。

問 14 マイナンバーカードの取得有無

【設問】あなたはマイナンバーカードを取得していますか。（回答は1つだけ）

※ 単数回答（1=取得している、2=取得していない）

① 全体集計 (n=754)

選択肢	ウェイトなし (%) 【主】 n=754	ウェイトあり (%) 【参考】 n=754	差 (W-R)
1 (取得している)	89.8	89.7	-0.1
2 (取得していない)	10.2	10.3	+0.1
無回答	2.7% (20件)	—	—

② 年代別集計 (ウェイトなし、各年代内を分母)

選択肢	30代以下 (%) n=156	40~50代 (%) n=258	60代以上 (%) n=307
1 (取得している)	89.7	89.5	89.9
2 (取得していない)	10.3	10.5	10.1
無回答	2.7%	2.7%	2.7%

※ 取得率は全体で90%弱。年代間の差は小さく、ほぼ全世代で9割前後が取得済み。

問 15 マイナンバーカードを取得しない理由

【設問】 マイナンバーカードを取得しない理由は何ですか。(自由意見)

本設問は自由記述形式のため、数値集計の対象外とする。問 14 で「取得していない」と回答した者(全体の約 10%、n≒75)からの主な意見を以下に整理する。

意見カテゴリ	主な記述内容 (代表例)	件数 (概数)
高齢・身体的理由	高齢のため申請に行けない	約 3 件
手続きが面倒	取得するのが面倒くさい・区役所に行く時間がとれない・平日仕事で行く暇がない	約 6 件
個人情報・セキュリティ	個人情報管理への不安・運用・管理体制を信用できない	約 3 件
必要性・利便性を感じない	利便性を感じない・マイナンバーカード導入時には必要性が感じられなかった	約 4 件
更新・手続きの煩雑さ	家族の人数が多く面倒。更新のたびに区役所に行かなければならないと聞き億劫	約 3 件

意見カテゴリ	主な記述内容（代表例）	件数（概数）
その他	期限切れ・個人番号を失念・ポイント配布対象外でやる気が失せた	約5件

※ 自由記述回答者は問14で「取得していない」と回答した者（n=75）。件数は記述内容の分類による概数。

問16 マイナンバーカードサービスの認知度

【設問】マイナンバーカードを用いてどのようなサービスを受けることができるか知っていますか。（回答はいくつでも）

※ 複数回答（分母=全回答者 n=754）。

① 全体集計（n=754）

選択肢	ウェイトなし (%) 【主】	ウェイトあり (%) 【参考】	差 (W-R)
1 本人確認としての利用	90.2	91.8	+1.6
2 健康保険証としての利用	89.4	90.6	+1.2
3 コンビニでの証明書等取得	71.1	74.0	+2.9
4 子育てに関する手続き	6.2	7.3	+1.1
5 e-Taxからの確定申告	32.2	33.6	+1.4
6 給付金の受取	25.3	25.6	+0.3
7 年金に関する手続き	16.0	15.6	-0.4
8 転出届の申請	17.1	17.4	+0.3
9 パスポートの申請	16.7	17.8	+1.1
10 その他民間事業者によるサービス	6.8	6.8	+0.0

② 年代別集計（ウェイトなし、各年代内を分母）

選択肢	30代以下 (%) n=156	40~50代 (%) n=260	60代以上 (%) n=313
1 本人確認としての利用	91.0	94.6	89.8
2 健康保険証としての利用	89.7	92.3	89.8
3 コンビニでの証明書等取得	82.1	78.8	62.6
4 子育てに関する手続き	12.2	8.5	1.9

選択肢	30代以下 (%) n=156	40~50代 (%) n=260	60代以上 (%) n=313
5 e-Tax からの確定申告	32.7	42.3	25.9
6 給付金の受取	21.8	30.4	24.3
7 年金に関する手続き	13.5	12.3	20.4
8 転出届の申請	18.6	15.4	18.2
9 パスポートの申請	24.4	17.3	12.8
10 その他民間事業者によるサービス	7.7	6.5	6.4

※ 「本人確認」 (90%) 「健康保険証」 (89%) 「コンビニ証明書取得」 (71%) が上位3項目。

※ 「コンビニでの証明書取得」は30代以下 (82%) が60代以上 (63%) より高い。「e-Tax」は40~50代 (42%) が最高。

問17 中学生以下の子どもの子育て有無

【設問】あなたは現在、妊娠中もしくは中学生以下のお子さまの子育てをしていますか。(回答は1つだけ)

※ 単数回答 (1=はい、2=いいえ)

① 全体集計 (n=754)

選択肢	ウェイトなし (%) 【主】 n=754	ウェイトあり (%) 【参考】 n=754	差 (W-R)
1 (はい)	18.4	21.4	+3.0
2 (いいえ)	81.6	78.6	-3.0
無回答	2.9% (22件)	—	—

② 年代別集計 (ウェイトなし、各年代内を分母)

選択肢	30代以下 (%) n=156	40~50代 (%) n=259	60代以上 (%) n=303
1 (はい)	35.3	30.5	0.3
2 (いいえ)	64.7	69.5	99.7
無回答	2.9%	2.9%	2.9%

※ 「いいえ」が全体で82%。60代以上は99.7%が「いいえ」。30代以下 (35%)・40~50代 (31%) が子育て中。

問 18 城東区で子どもを育てたい思い

【設問】【問 17 で「はい」と回答された方】これからも城東区で子どもを育てていきたいと思いませんか。
(回答は 1 つだけ)

※ 単数回答・問 17 で「はい」と回答した者のみ (30 代以下 n=55、40~50 代 n=79、60 代以上 n=1)。有効 n 小のため解釈に注意。

① 全体集計 (有効回答 n=135)

選択肢	ウェイトなし (%) 【主】	ウェイトあり (%) 【参考】	差 (W-R)
1 (思う)	61.5	59.5	-2.0
2 (どちらかといえば思う)	33.3	34.7	+1.4
3 (どちらかといえば思わない)	5.2	5.8	+0.6

② 年代別集計 (ウェイトなし、各年代内を分母)

選択肢	30 代以下 (%) n=55	40~50 代 (%) n=79	60 代以上 (%) n=1
1 (思う)	49.1	69.6	100.0
2 (どちらかといえば思う)	41.8	27.8	—
3 (どちらかといえば思わない)	9.1	2.5	—

※ 「思う」「どちらかといえば思う」の合算は全体で 95%。城東区での子育て継続意向が高い (60 代以上は n=1 のため参考値)。

問 19 子育て支援事業の参加有無

【設問】子育て支援事業に参加したことがありますか。(回答は 1 つだけ)

※ 単数回答 (1=ある、2=ない)

① 全体集計 (n=754)

選択肢	ウェイトなし (%)【主】 n=754	ウェイトあり (%)【参考】 n=754	差 (W-R)
1 (ある)	13.1	14.0	+0.9
2 (ない)	86.9	86.0	-0.9
無回答	9.2% (69件)	—	—

② 年代別集計 (ウェイトなし、各年代内を分母)

選択肢	30代以下 (%) n=151	40~50代 (%) n=255	60代以上 (%) n=269
1 (ある)	15.2	22.7	3.3
2 (ない)	84.8	77.3	96.7
無回答	9.2%	9.2%	9.2%

※ 「ない」が全体で86.9%。60代以上(97%)の参加率は極めて低く、40~50代(23%)が相対的に最も高い。無回答が9.2%(69件)と他設問より多い。

問 20 子育て支援事業の開催情報の入手先

【設問】【問19で「ある」と回答された方】参加された事業の開催情報は何で知りましたか。(あてはまるものすべて回答)

※ 複数回答。対象は問19で「ある」と回答した者のみ(n=90)。割合の分母は各年代の全回答者数(30代以下 n=156・40~50代 n=260・60代以上 n=313)であり、問19参加者ベースではないことに注意。参加者数が少ないため全体値も低くなっている。

① 全体集計 (全回答者 n=754)

選択肢	ウェイトなし (%)【主】	ウェイトあり (%)【参考】	差 (W-R)
子育て応援情報誌「わくわく城東」	5.2	5.7	+0.5
大阪市公式 LINE	0.8	0.9	+0.1
城東区広報誌「ふれあい城東」	5.2	5.6	+0.4
区ホームページ	1.5	1.8	+0.3
0歳児家庭見守り支援事業	0.7	0.8	+0.1
子育て支援施設で知った	4.9	5.3	+0.4
友人・知人などから聞いた	3.1	3.3	+0.2

選択肢	ウェイトなし (%)【主】	ウェイトあり (%)【参考】	差 (W-R)
その他	0.8	1.0	+0.2

② 年代別集計 (ウェイトなし、各年代内を分母)

選択肢	30代以下 (%) n=156	40~50代 (%) n=260	60代以上 (%) n=313
わくわく城東	6.4	9.6	1.3
大阪市公式 LINE	1.3	1.2	0.3
ふれあい城東	5.8	10.0	1.3
区ホームページ	3.2	2.3	0.0
0歳児家庭見守り事業	1.3	1.2	0.0
子育て支援施設	5.1	10.0	1.0
友人・知人など	3.2	6.2	0.6
その他	1.9	1.2	0.0

※ 「わくわく城東」「ふれあい城東」「子育て支援施設」が主要な情報源。40~50代では「ふれあい城東」と「子育て支援施設」が各10%と高い。

※ 全体の回答率が低いのは問19「ある」回答者 (n=90) のみが対象のため。

問21 健康に配慮した食事への思い

【設問】 ふだん健康に配慮した食事を心がけていますか。(回答は1つだけ)

※ 単数回答 (1=はい、2=いいえ)

① 全体集計 (n=754)

選択肢	ウェイトなし (%)【主】 n=754	ウェイトあり (%)【参考】 n=754	差 (W-R)
1 (はい)	76.9	76.1	-0.8
2 (いいえ)	23.1	23.9	+0.8
無回答	3.6% (27件)	—	—

② 年代別集計 (ウェイトなし、各年代内を分母)

選択肢	30代以下 (%) n=156	40~50代 (%) n=259	60代以上 (%) n=311
1 (はい)	70.5	77.6	79.4
2 (いいえ)	29.5	22.4	20.6
無回答	3.6%	3.6%	3.6%

※ 「はい」が全体で77%。60代以上(79%)が最も高く、30代以下(71%)が最も低い。

問 22 朝食摂取の有無

【設問】ふだん朝食を食べていますか。(回答は1つだけ)

※ 単数回答(1=ほとんど毎日食べる、2=週に4~5日食べる、3=週に2~3日食べる、4=週に1日食べる、5=ほとんど食べない)

① 全体集計 (n=754)

選択肢	ウェイトなし (%) 【主】 n=754	ウェイトあり (%) 【参考】 n=754	差 (W-R)
1 (ほとんど毎日食べる)	79.0	76.9	-2.1
2 (週に4~5日食べる)	4.8	5.3	+0.5
3 (週に2~3日食べる)	5.4	6.1	+0.7
4 (週に1日食べる)	1.7	1.9	+0.2
5 (ほとんど食べない)	9.2	9.8	+0.6
無回答	3.6% (27件)	—	—

② 年代別集計 (ウェイトなし、各年代内を分母)

選択肢	30代以下 (%) n=156	40~50代 (%) n=259	60代以上 (%) n=311
1 (ほとんど毎日食べる)	62.8	78.0	87.8
2 (週に4~5日食べる)	9.6	2.7	4.2
3 (週に2~3日食べる)	10.9	5.8	2.3
4 (週に1日食べる)	3.8	1.9	0.3
5 (ほとんど食べない)	12.8	11.6	5.5

選択肢	30代以下 (%) n=156	40~50代 (%) n=259	60代以上 (%) n=311
無回答	3.6%	3.6%	3.6%

※ 「ほとんど毎日食べる」が全体で79%。60代以上(88%)が最も高く、30代以下(63%)が最も低い。欠食傾向は若年層に集中。

3. まとめ

3-1. 標本代表性とウェイト補正

本調査の標本は30代以下が過少代表(-8.6pt)、60代以上が過剰代表(+7.3pt)という偏りを有するが($\chi^2(2) = 29.33, p < .001, V = 0.14$)、効果量は小~中程度。分析の主目的が年代別比較であること等を踏まえウェイト補正は実施しない。全体集計値の解釈にあたっては標本構成上の制約を念頭に置くこと。

3-2. ウェイトなし・ありの主な差異

設問	選択肢	ウェイトなし【主】	ウェイトあり【参考】	差
問17 子育て有無	1 (はい)	18.4%	21.4%	+3.0pt
問2 充実記事	6 高齢者	39.4%	33.2%	-6.2pt
問2 充実記事	4 子育て	19.0%	22.7%	+3.7pt
問16 サービス認知	3 コンビニ証明書取得	71.1%	74.0%	+2.9pt

※60代以上過剰代表により、高齢層に特徴的な回答(保険証不安・高齢者記事等)はウェイトなしで高め。解釈を変えるほどの乖離ではない。

3-3. 主要な知見と政策的含意

【問1 情報入手先】

「ふれあい城東」が83%で最多。60代以上(91%)に集中。30代以下はWEBやSNS系の比率が相対的に高い。→若年層への情報到達にはLINE・ホームページ・SNSなどデジタルチャネルの強化が有効と考えられる。

【問2 充実してほしい記事】

「くらし・住まい」(61%)が最多。「子育て」は30代以下(45%)、「高齢者」は60代以上(71%)で突出し、年代ニーズの差が顕著。→年代別ニーズに応じた紙面構成の見直しや、デジタル版での個別配信の検討が考えられる。

【問6 住民のつながり】

肯定的評価は41%にとどまり、「あまり感じない」が39%と拮抗。地域コミュニティの結束が弱い傾向。→町会活動支援・地域交流イベント等によるつながり強化が課題。

【問12 まちの安全】

肯定的評価が87%と高水準。30代以下(88%)が最も高い。→「あまり感じない」と回答した14%の声(問13自由記述:街灯不足・外国人・不審者等)への具体的対応が重要。

【問14・問15・問16 マイナンバー関連】

取得率は90%弱で年代差は小さい。未取得理由の自由記述では「面倒」「必要性なし」が主。→取得促進よりも取得済み者へのサービス認知向上(e-Tax・給付金等の低認知サービスの広報)が次の課題。

【問19・問20 子育て支援】

参加率は全体13%(40~50代で23%)。情報入手は広報誌・子育て支援施設が主。→参加率向上には施設での案内強化と対象者(30~40代)へのSNS等を通じた周知が有効と考えられる。

【問22 朝食摂取】

毎日食べる割合は全体79%だが30代以下(63%)で低く、若年層の欠食が課題。→SNS等若年層向けチャンネルでの朝食摂取促進情報の発信が有効と考えられる。

※問13・問15は自由記述のため集計対象外。問18・問20は問17・問19での条件付き回答のためnが小さく解釈に注意。